

フィギュアスケート競技においてトップアスリートになるための条件に関する一考察

A consideration about the conditions for an elite athlete in figure skating

1K07B129-1 武田 奈也

指導教員 主査 吉永 武史先生 副査 友添 秀則先生

【序章】

2006（平成 18）年に開催された冬季オリンピックのトリノ大会において、フィギュアスケート女子シングルの荒川静香選手が金メダルを獲得した。日本選手の競技力は国際レベルでも群を抜いており、2010（平成 22）年のバンクーバー大会の国内予選は、浅田真央選手や安藤美姫選手、中野友加里選手らによって激しい戦いが繰り広げられた。私自身も、フィギュアスケートのトップ選手になることを目標としながら、5 歳の頃から日々厳しいトレーニングに励んできた。フィギュアスケート競技の世界はとても華やかな世界に見えるかもしれないが、現実にはトップ選手への道のりはかなり険しい。オリンピックの代表選手になるのはもちろんのこと、グランプリシリーズに出場できる選手もごく少数である。

フィギュアスケート競技においてトップ選手になるためには、いくつかの条件を備えていなければならない。それらの条件の 1 つとして、可能な限り早い時期から競技に取り組み始めることがあげられる。また、競技を取り巻く環境が十分に整備されていることもトップ選手となるための重要な条件である。毎日のトレーニングに欠かせないアイススケートリンクの数は、現在は極めて少ない状況にある。そして、競技レベルが上がるほど、より難易度の高い技を組み入れた（演技の）プログラムが要求されるようになり、それらの技術を習得するためには専門的な指導者の存在が必要不可欠である。加えて、オリンピック大会や世界選手権大会の代表に選出されるためには、国際大会での実績の積み重ねが必須となる。

本研究では、フィギュアスケート競技においてトップアスリートになるための諸条件について検討することを目的とした。具体的には、フィギュアスケート競技に関する文献資料にもとづいて、発達段階や競技環境の観点からフィギュアスケート競技の分析を試みた。

【第1章】

第 1 章では、神経系の発達の観点から、フィギュア

スケート競技への早期的な取り組みの重要性について検討した。運動神経の回路が漸増していくのが 10～12 歳頃までとされている（立花, 2006, p. 14）。フィギュアスケート競技では、トップ選手のほとんどが幼児期から競技に取り組み始め、小中学校の段階でジャンプのレベルがほぼ決定される。そのため、現在のトップ選手は、ジュニアの前段階であるノービスから注目されている選手がほとんどである。また、体の柔らかさも必要不可欠で、柔軟性がないとビールマンズピンなどのポジションが綺麗に取れなくなってしまう。これらのことから、フィギュアスケート競技では、早期からの取り組みが重要であるといえる。

【第2章】

第 2 章では、競技環境の観点からフィギュアスケート競技を分析し、練習施設に関する問題や専門的な指導者の必要性について検討を試みた。女子選手の場合、ノービスの段階までにジャンプの技能がほとんど形成されるため、この時期にジャンプを専門的に指導することのできるコーチに出会うことがとても大切になる。また、演技のプログラムを構成する振付師の存在もトップ選手をめざす上では重要である。一般的には、ノービスまたはジュニアの頃から振付師へ依頼するようになるが、自分の個性をより引き出してくれるような振付師に出会うことが競技成績を左右することになるといえる。

【第3章】

トップ選手になるためには国際舞台における経験の豊富さが重要であることから、第 3 章では、国際大会へ出場することの重要性と世界ランキングによるポイント制などについての検討を行った。現在のトップ選手は全員、ノービスあるいはジュニア時代から海外での大会に数多く出場してきた。世界選手権などの国際大会の場合、世界ランキングのポイントによって滑走順が決定されることから、国際大会での経験と実績が、フィギュアスケート競技のトップ選手になるためには不可欠といえる。